● 遮断器取付ねじの締付トルク

遮断器の外郭はプラスチック製です。遮断器の外郭に直接ねじが作用する場合，下表の締付トルクで取り付けし，過大な推力が遮断器に加わらないようにご注意ください。

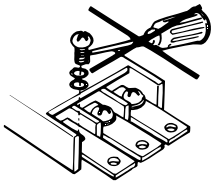
締付トルク（N・m）

取付ねじを同梱していない機種（注2）			取付ねじを同梱している機種（注1）
ねじの材質	鉄ねじ（亜鉛めっき付）	ステンレスねじ	
F Style NF/NV32-SVF NF/NV63-CVF/SVF NF/NV50-SVFU KCシリーズ FHUシリーズ	M4：1.0～1.4	M4：0.6～0.8	M4：1.0～1.4 M6：2.5～4 M8：5～7 M10：20～30 M12：40～50 M16：95～125
FA/FAUシリーズ	M4：1.4～1.9 M5：1.4～1.9 （表板取付）	M4：0.9～1.2 M5：0.9～1.2 （表板取付）	

注（1）取付ねじを同梱している場合は，同梱したものをご使用ください。
（2）ねじは，Pなべねじにばね座金と平座金（小形丸）の組み合せまたは，ばね座金と平座金付きのPなべねじを使用してください。
備考：取付ねじの同梱有無については，P.514を参照ください。

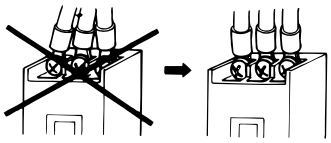
（2）接続上のご注意

ねじ部に油は禁物



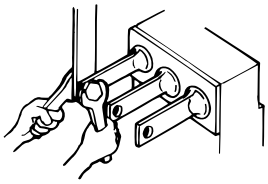
●ねじ部に潤滑油をつけないでください。潤滑油をつけるとねじ部の摩擦が少なくなり，ゆるみやすく過熱の原因となります。また標準締付トルクでも過大な応力がねじ部に生じ，ねじの破損につながります。

導体は各極平行に



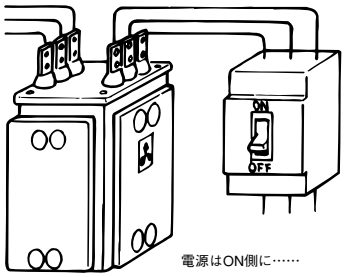
●接続導体は各極が平行になるように取付けてください。

スタッドを変形させない



●裏面形の導体接続は，スタッドを変形させないよう締付けてください。

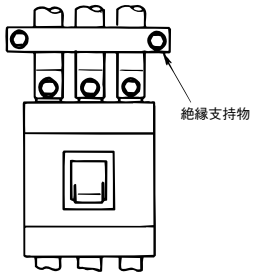
逆接続はしない



●電源負荷の逆接続は原則として行わないでください。行う場合は仕様一覧表で逆接可能となっている機種をご使用ください。
● 高電圧回路で結露が発生しやすく，回路上逆接続状態となる回路では，遮断器の電源・負荷側共に絶縁バリアを装備することを推奨します。

導体はしっかり固定する

●接続導体には事故電流に応じて大きな電磁力が発生しますので右表の条件をめやすにして強固に固定（結束）してください。

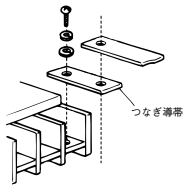


導体1mあたりに働く電磁力の値（三相短絡の場合）N

電流対象値 kA（Pf） ＼ 導体間隔 cm		10	20
10	（0.4）	490	245
18	（0.3）	1860	930
25	（0.2）	4410	2205
35	（0.2）	8720	4360
42	（0.2）	12545	6270
50	（0.2）	17835	8920
65	（0.2）	30185	15090
85	（0.2）	51550	25775
100	（0.2）	71540	35770
125	（0.2）	111720	55860

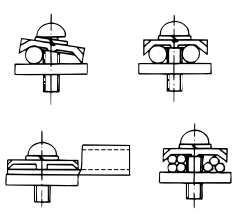
バー接続

●直接導体を接続されるときは外形寸法図に記載の導帯加工図により加工してご使用ください。
●バー端子に導体を接続する場合は，大地との絶縁距離にご注意ください。地絡防止バリアはご指定により製作します。



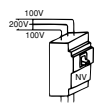
線押え式接続

●端子に直接接続する場合には，単線またはより線をまっすぐさし込み，締付けてください。直接，市販の圧着端子またはバーを接続することもできます。
●機器用電線など芯線の細いより線を使用する場合，5.5mm²未満はふり分けないで接続してください。
5.5mm²以上の電線の場合はふり分けて接続してください。

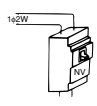


NVの接続

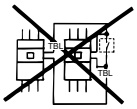
●単相3線式にご使用のときはNVの中央極に中性極を接続してください。



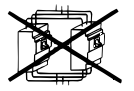
●3極のNVを単相2線にご使用のときは，NVの左右極（両端極）に接続してください。
中極は使用しないでください。

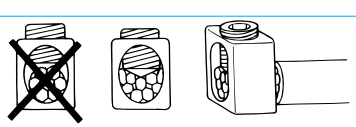


●TBLの共用接続はしないでください。（ライン電圧がかかっています。）



●NVを並列接続すると，まわり回路ができてNVが動作し，電磁装置が焼損することがありますので絶対に並列接続しないでください。
●NFとNVの並列接続も絶対にしないでください。



ソルダレス端子接続

●接続電線のよりをほぐして芯線をそろえてから締付けてください。
経時により電線になじみが生じますので，定期点検と増締めが必要です。
●より線の先端はハンダ固めやバインドをしないでください。
●電線の絶縁被覆をかまないように締付けてください。